

# 鹿児島医セン

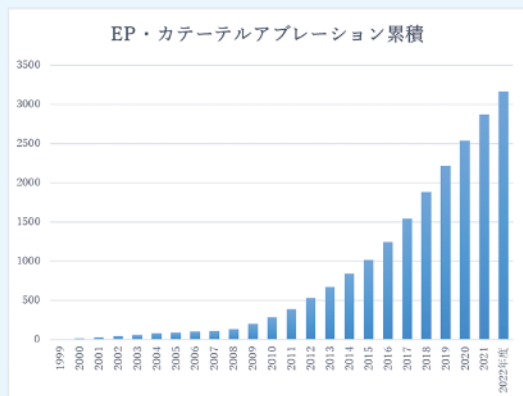
鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2023.7

vol.207

## 電気生理学的検査・カテーテルアブレーション 3000例達成

現在の高周波によるカテーテルアブレーション（経皮的カテーテル心筋焼灼術）は、1987年から行われている頻脈性不整脈に対するカテーテルで行う治療法です。頻拍性不整脈に対する非薬物療法は1969年にWPW症候群に対して外科治療が行われ、1994年から経皮的カテーテル心筋焼灼術として保険適応され、多くの施設で施行されるようになりました。主な適応疾患は、上室性頻拍、心房粗動、心室頻拍、心室期外収縮などですが、2000年頃からは心房細動も対象となるようになり、飛躍的に手術件数が増加しています。また、近年の三次元画像診断装置が発展し、より複雑な頻拍の治療も可能となり、心臓術後の心房頻拍など複雑な電気回路が想定される頻拍も積極的に治療しています。



当院でも、2000年頃から、不定期ですが鹿児島大学の協力を得ながらカテーテルアブレーションを施行するようになりました。2009年1月からは治療施行医が常勤となり、徐々に症例数が増加しています。年間の症例数は、2009年68例でしたが、2016年には200例を超え、2018年には336例となりました。2022年度には、当院でのカテーテルアブレーションは3000例を超えることができました。

現在、症例の約7割が心房細動症例となっています。1999年に私が土浦協同病院に国内留学中、フランス留学から帰ってこられた高橋淳先生を中心に心房細動アブレーションが始まりました。その当時は、ハードルの高い治療のイメージがあり、これほど広く行われるようになるとは思っていませんでした。課題も多いですが、現段階では心房細動に対してのカテーテルアブレーションは、最も有効的な治療となっています。全身麻酔下で、当初は1例あたりに長い時間がかかっていましたが、看護師、臨床工学士、臨床検査技師、放射線技師の皆さんが積極的にアブレーションにかかわっていただき、スムーズに、より安心して治療を行える環境となりました。最近ではより有効的で、効率的、合併症が少なくなるように、イリゲーションカテーテル、冷凍バルーン、ホットバルーン、レーザーバルーンといったデバイスの進歩もあります。その分多くの患者さまを治療できるようになっています。今後も、安全な治療を心掛けていきたいと思えます。また、この分野の治療も日進月歩で、さらに新しい知見、技術が進歩しています。いち早く患者さまに最新の治療が届けられるよう日々精進していきたいと思っています。

(文責：不整脈治療科部長 塗木 徳人)

## 部門紹介

# 放射線科 (ラジエーションハウス)

放射線科は、高度医療機器を用いて画像検査、治療を行っており、X線撮影装置2台、歯科用撮影装置2台、透視装置1台、CT2台、MRI2台、血管撮影装置5台（ハイブリッド手術室1台、IVR-CT1台）、ポータブル撮影装置4台、ポータブル透視撮影装置1台、スペクト装置2台、リニアック装置1台、腔内照射装置1台の最先端装置が稼働しています。スタッフは、放射線医師6名、診療放射線技師18名の専門性に優れた精鋭が配属されており、また、2006年に全国で3番目となる医療被ばく低減施設の認定を取得しており、少ない被ばく線量で最良の医療画像情報と高精度の放射線治療の提供を目指し、TVドラマの『ラジエーションハウス』に負けない熱い気持ちで日常臨床に臨んでおります。各検査について概要や特徴を紹介させていただきます。

### ● CT検査

CTは、X線を用いて身体の断面を撮影する検査です。当院では2台のCT装置が稼働しております。特に2005年から取り組みが始まった心臓CT検査は、入院してカテーテル検査にて評価していた冠動脈の狭窄を外来検査にて評価することが可能となり、今年で延べ20,000件の検査を達成して画像診断に大きく貢献しております。また、CT検査で作成される3D画像は手術支援にもとても有用で術前のシミュレーションには欠かせない役割を担っております。

### ● MRI検査

MRI検査は、X線を使用せずに磁石と電磁波の力によって身体の断面を撮影する検査です。当院では、3T(テスラ)MRI装置と1.5TMRI装置と合わせて2台のMRIが稼働しています。MRIの主な検査は頭部が最も多く、急性脳梗塞の診断に有用です。その他腹部、骨盤、脊椎、心臓などの検査を行っています。また、ペースメーカー装着者のMRI撮影も専門医と放射線技師が適応を確認して、医師の立会いの下検査を行っています。

### ● 血管造影検査

血管造影検査は、カテーテルと呼ばれる細い管を血管内に挿入し、血管や病巣の状態を調べて血管内から治療を行います。当院では多種多様の装置を備え心臓や頭頸部の血管の治療、心臓弁の治療、腹部腫瘍の治療など幅広い疾患に対して、多職種連合チームにて検査や治療を行っています。特に2017年に開始された経皮的動脈弁置換術（TAVI）は年間100例を超える症例が行われており、ハートチームの団結力の現れとなっております。

## ● RI検査

RI検査は、核医学検査またはシンチとも呼ばれており、微量の放射線同位元素（RI：ラジオアイソトープ）を注射して病気の有無を調べる検査で、心筋シンチ、脳血流シンチなどの検査を行っています。多くの検査が組織の形態的な異常を調べる検査であるのに対して、RI検査は臓器・組織の機能的や代謝の異常を調べる検査です。心筋シンチは年間1,800件の検査を行っており全国1位の件数を誇ります。

## ● 放射線治療部門

放射線治療は1981年より始まり今日まで約42年間に渡り約5,700人の患者さんの放射線治療を行ってきました。また、地域がん診療連携拠点病院として鹿児島県のがん医療の一翼を担っております。

放射線治療の大きな特徴はがんに侵された臓器の機能や形態を温存でき、手術不可能な高齢者にも適応可能で、生活の質（Quality of Life）を維持しやすい治療方法となっています。当施設の治療装置は画像による誘導により治療部位を確認して、6軸補正機能付き治療寝台で位置合わせを補正し、高精度な治療を行っています。また2022年11月に第三者機関による出力評価を受け、適切な治療が行われているという評価を受けました。

（文責：診療放射線技師長 宮島 隆一）



# 職場紹介

## 【東4階病棟】

東4病棟は、心臓血管外科・消化器外科を中心とした一般病床44床（観察室9床を含）、HCU4床を有する病棟です。心臓血管外科では、主に冠動脈疾患に対する心拍動下もしくは心停止下の冠動脈バイパス術や弁形成術、人工弁置換術、胸部・腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術を中心に治療を行っています。また、高齢者に対する治療として、胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）のサポートを行っております。



▲一般病棟での多職種カンファレンス風景

TAVI治療患者様については、昨年度より、ICUとHCUが連携し術後当日の受け入れも開始しており、安全・安心な看護が提供できるよう、循環器内科医師及び循環器内科病棟との連携を図っています。消化器外科では、腹腔鏡下手術を積極的に導入し、主に胃切除、噴門側胃切除、胃全摘、小腸切除、結腸切除、直腸切除の治療や術前・術後の化学療法も行っていきます。

看護の特徴としては、心臓血管外科・消化器外科の周手術期の看護において、手術決定時から、患者・ご家族の思いに寄り添い、安心して手術を受けられるように入院支援を行うと共に、ACPの積極的な介入を行っています。患者・家族に対する意思決定支援の充足に向け、多職種が連携しながら治療・看護が提供できるように、多職種カンファレンスの充足にも取り組んでいます。また、ストーマケアや皮膚トラブル等への対応については、皮膚・排泄ケア認定看護師が常勤するため、看護師教育を行いながら質の向上並びに維持に取り組んでいます。術後の退院支援については、受け持ち看護師を中心に早期からMSCと連携を図り、患者・家族が安心して退院が迎えられるよう、外来や地域と連携を図りながらサポートしています。

（文責：看護師長 久徳 博子）



▲ストマの装具選択



▲シュミレーターを使用したストマ指導

■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

**鹿児島医療センター**（心臓病・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

（代）TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

**メディカルサポートセンター**

地域連携室専用FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

